

部署紹介

南病棟3階

脳神経内科・歯科口腔外科



南病棟3階

脳神経内科・歯科口腔外科の混合病棟

病床数：48床（脳神経内科25床 歯科口腔外科11床
共通12床）

看護要員：看護師長 1名
副看護師長 2名
看護師 33名
看護補助者 8名

看護提供方式：チームナーシング（2チーム、
+PNS（パートナーシップナーシング）

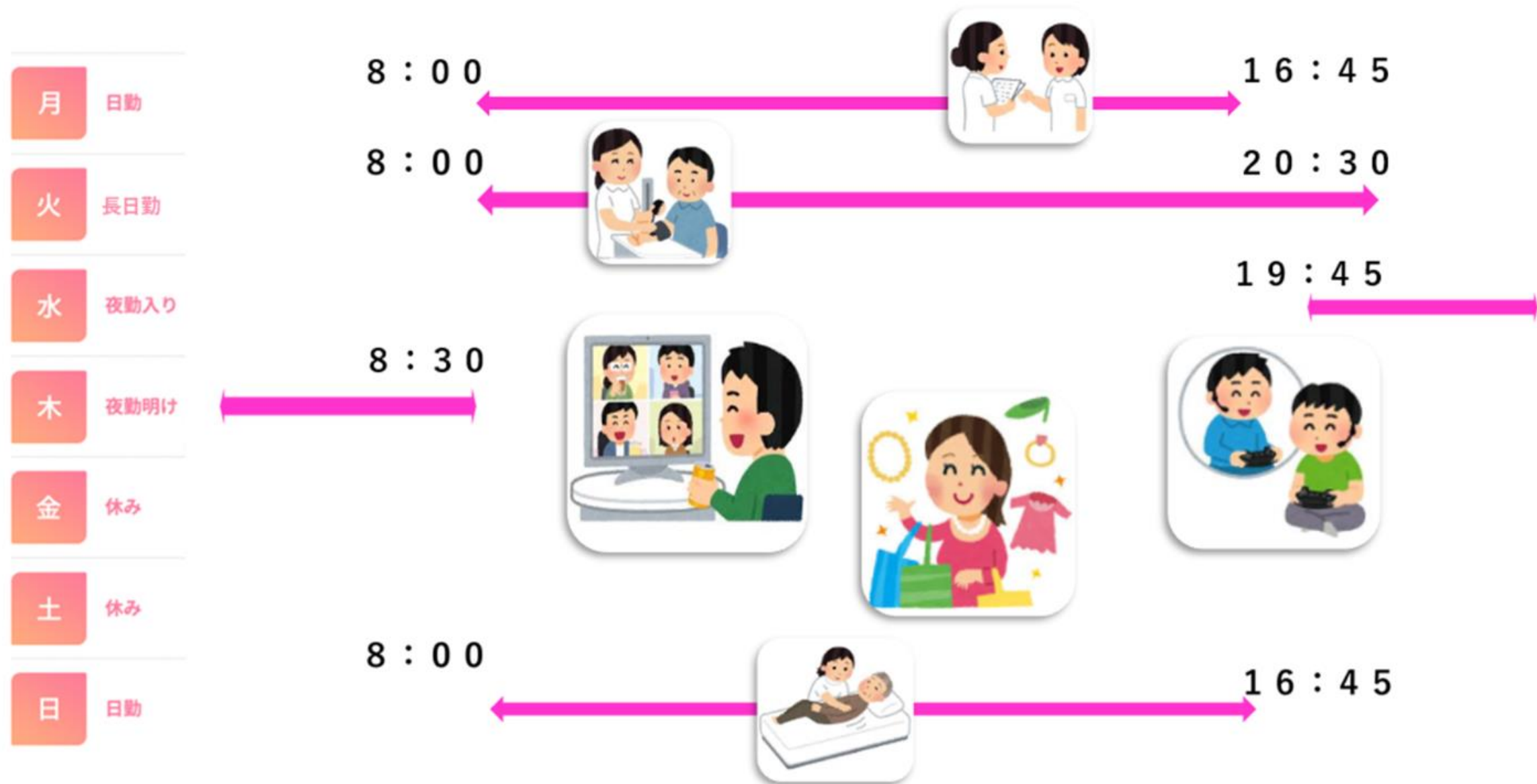


<南3階 看護師の日勤>

- 7 : 45 出勤
- 8 : 20 夜勤看護師からの申し送り
- 8 : 30 バイタルサイン測定、全身状態観察
- 10 : 00 看護記録入力、保清、処置
- 11 : 30 } 交代でお昼休憩
- 12 : 30 }
- 13 : 30 カンファレンス（てんかん患者の情報共有、
離床センサー設置の検討、インシデント事例、退院支援など）
- 14 : 00 処置、点滴
- 15 : 00 看護記録入力
- 16 : 45 勤務終了



南3階：1週間の勤務形態（1例）



職員紹介

◆ 聖護院 蕪子さん（仮名）

◆ 入職2年目

◆ 主な仕事内容

・ 脳神経内科の入院患者さんへの看護

（食事介助、更衣介助、清潔介助、排泄介助などの日常生活ケア、退院支援、意思決定支援など）

・ 歯科口腔外科の入院患者さんへの看護

（手術前後の全身状態の観察、口腔内清潔の援助、感染予防など）

医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ソーシャルワーカー・在宅スタッフなど他職種と連携しながら働いています。



聖護院さんのある1日

7:45 出勤、情報収集
8:15 申し送り
9:00 朝のラウンド
10:30 シャワー介助
12:30 昼休憩
14:30 午後のカンファレンス
16:45 退勤
17:00 京都駅で買い物🛒
18:00 帰宅して夕食🍴
19:00 テレビ視聴、音楽鑑賞🎧
20:00 友達とLINEで電話📞
23:00 就寝🌙



仕事をする上で大切にしていること

私は患者さんとのコミュニケーションを大切にしています。業務で忙しいこともありますが、時間を見つけて少しでも会話をすることで患者さんとの信頼関係を構築し、安心した入院生活を送ることができるよう意識しています。もう一つはチームで患者さんをみているという意識を大切にしています。1人で判断するのではなく、先輩看護師や多職種のスタッフ等と情報共有して話し合い、患者さんが少しでも良い方向に進むことができるよう看護しています。

メッセージ

私は京大病院南病棟3階に就職した2年目看護師です。経験が浅く患者さんへの対応に悩むことや、分からないケア・技術に戸惑うことがよくあります。そんなとき、優しく、丁寧に、分かるまで指導してくれる先輩看護師のおかげで日々成長することができ、安心して働くことができています。休みの日には仕事のことを忘れて、同期や友達と遊んだり趣味に没頭したりと、リフレッシュすることも大切にしています。京大病院に就職した際は、是非南病棟3階に来てください。一緒に働くことを楽しみにしています。

主な脳神経内科の疾患：脳梗塞

脳梗塞は脳の血管が詰まることで、麻痺や構音障害等の症状が出現します。急性期は薬剤の投与や安静時の日常生活の介助を行います。慢性期になると、リハビリ、内服管理、生活指導、退院調整などを行います。転院先や退院後の介護サービスの調整は医療ソーシャルワーカーと連携して行っています。

京大病院では脳卒中連携パスを用いることで地域の病院と円滑に連携できるように取り組んでいます。



点滴・内服の管理



後遺症のある患者さんへの生活援助



リハビリテーション

主な脳神経内科の疾患：パーキンソン病

指定難病の一つであり、手足の震えや前かがみになりやすい、思うように体を動かせないといった症状が出現します。転倒の危険が高く、ベッド周囲の環境整備や注意喚起を行い、転倒予防に取り組んでいます。症状は個人差があり患者さんに合わせた看護が大切です。

治療法は内服管理が主となりますが、他にもデバイス治療やLCIG療法、ヴィアレブ®療法といった補助療法を行うことで症状の軽快をはかる治療方法も取り入れています。



主な脳神経内科の疾患：ALS

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は、指定難病の一つです。

運動神経が障害されて、体を動かすのに必要な筋肉が徐々に痩せて力がなくなっていくます。

経過に合わせて自助具や福祉用具の利用によるADLの確保を行い、NPPV（非侵襲的人工呼吸器）PEG（経皮的胃瘻造設術）などの本人の希望を確認します。

身体機能維持やコミュニケーション手段の確立のために、リハビリテーションが重要であり、リハビリ部門と連携をとっています。

NPPV（非侵襲的人工呼吸器）



吸引の指導



コミュニケーション手段の確立



胃瘻管理の指導

主な脳神経内科の疾患：てんかん

てんかん発作が出現したときに安全に対応できるようにしています。特にVEEGという24時間の脳波検査では発作が起こりやすいように減薬することもあるため、VEEG専用の病室も用意されています。



※VEEG専用の病室

ベッド柵カバー：発作時にベッド柵にあたってケガをしないようにしています

移動用リフト：トイレや洗面などの移動時に発作が起きても転倒しないよう装着し移動します

指導用
パンフレット

発作をおこさないための生活習慣

◆薬をきちんと服用しましょう

てんかん治療は薬物療法が主体です。医師に処方された飲み方を守りましょう。飲み忘れを防ぐために、薬袋に服用した日付と時間を記入するといでしょう。



◆毎日6時間以上寝ましょう
仕事や勉強のため寝不足となった場合は翌日や次の休日には十分に休息をとり、疲れが回復できるようにしましょう。

発作が起こったときの対応

■全身けいれん発作

1. 安全を確保する

床や周囲の物で頭や身体を打たないように気を付け、平らな場所にゆっくりと寝かせます。又やきなど危険なものから遠ざけましょう。

2. 身体を横に向ける

唾液や嘔吐物による誤嚥や窒息を予防するためのです。身体を動かすことが難しい場合は、顎をあげて顔を真横に向けましょう。

3. 唾液や嘔吐物を拭き取る

発作中に発作が起きた場合であれば、無理に口を開けて食べ物を取り除いたり、タオルを口にかましたりしてはいけません。

4. ベルトやネクタイ、ボタンなど衣類をゆるめる

呼吸をしやすくするためのです。

5. 意識が戻るまでそのまま寝かせる

驚かず、落ち着いて対応しましょう。発作時の症状や時間を記録し、発作時に立ちます。可能であれば、携帯電話やスマートフォン・タブレットなどで動画を撮影して医師に送ります。



口腔外科：周手術期の看護

全身麻酔で歯を抜いたり、顎変形症の患者さんに対して顎の骨を切る骨切り術を行います。

歯を抜くだけと思われるかもしれませんが、全身麻酔で行うため、術後は全身管理が必要になります。

骨切り術の場合は手術時間が5時間以上かかることもあり、患者さんの負担も大きいため、術前から説明を行い、術後スムーズに回復していただけるように支援しています。



退院に向けての患者支援

患者さんの希望に沿ったより良い退院後の療養環境・生活を提供できるように、日々他職種とカンファレンスを通じて連携を図っています。状況に応じて在宅側ともカンファレンスを行い、情報共有とサービス調整を行います。



かかりつけ医

訪問看護師

保健所・市役所

ケアマネージャー

医療ソーシャルワーカー

医師

看護師

薬剤師

理学療法士
作業療法士
言語療法士

